

『音量(声の大きさ)』

◇若い頃、『先言後礼』という言葉を教えて頂きました。挨拶をする時、先に「お願いします。」「有難うございました。」という言葉を述べてから礼をするという、節目のある流れのことです。『語先後礼(ごせんごれい)』……「言葉を先に、礼を後に」とか『分離礼』……(言葉と礼を分ける)という類義語もあります。

逆に対義語となるのが、『ながら礼』と言うそうです。「別のことをしながら行う礼」……「しゃべりながら」。「ふざけながら」といった感じででしょうか。この行為は、挨拶に限らず、『ながら動作』として、ともすると、相手を不快にさせてしまうことにもなりかねません。

「挨拶にまで相手への意識や感謝が込められている」と感じさせるような挨拶ができれば、きっと良好な人間関係を築いていくことができるはずですが、ただ、残念ながら、習慣化していないと、いざ意識しようとしても、なかなか定着することは難しいものです。だからこそ、日頃から、挨拶にもメリハリをつけて、場に応じた対応の仕方を身に付けていく必要があります。

◇もう一つは、『音量』です。今までに、自分が発する声の大きさをどの程度意識したことがあるでしょうか？(合唱時以外の普段しゃべる声の大きさです。)しゃべる相手の距離によるところが大きく影響しますが、教室内でしゃべる声が、グループ内、もう言えば、2グループが精一杯、といった発言を見かけます。明らかに聞こえる音量ではないのに、聞こえていないのに、「わかりました。」という反応が返ってくる場合があります。『これほど無責任・無関心な反応はありません』。当然、その発言の本意もわからないまま流れていきます。これでは、授業の深まり・つながりは当然あり得ません。

こんな場面に遭遇した時、聞き直すこと、もう一回言ってもらうことの方が余程、仲間のことを考えた言動だと言えます。それによって、以降の発言につながりや深まりが生まれていきます。『聴く側の責任』です。

勿論、『話す側の責任』として、学級全員に伝わる声で、聴き手にわかってもらいたいという想いをもって話すことを改めて意識してほしいと思います。毎日行われる授業だからこそ、お互いに意識していけば、すぐに高められますよ！